

応募要領書別紙 評価の視点（参考）

5W1H の視点

大項目	中項目	応募申請書 関連番号
年度	☐ 応募時の年度を基準とする。 ☐ 過去の案件においても審査時点で他への波及効果(新規性・先導性)が期待できるか否か等、評価を行う。一方で、長期間運用している案件では、長期運用を行うための工夫点などは評価の対象となる。 ☐ 将来の拡張性は、実現が見込める項目のみ評価対象とする。	ー 5. 9.
地域性	☐ コージェネが導入しやすい導入しにくい地域の取組み ☐ 導入しやすい業種/導入しにくい業種の取組み など地域性・業種を考慮した導入の工夫点	5. 5.
仕様	☐ コージェネレーションシステム全体 ☐ コージェネレーションシステムのエネルギー等の活用方法 例：非常時の防災拠点など、エネルギーの直接利用が明確であるもの ☐ 平常時の排熱利用（蒸気、高温水（約 90℃）、低温水(約 60℃)）の工夫（「スマート性、面的利用」と関連） ☐ 非常時の仕様での工夫点（「防災性・電源セキュリティ性」と関連） 例：燃料供給(中圧導管、燃料多重化等)、冷却水確保（ラジエータ方式採用などで代替）、設置条件(津波対策を考慮し高所設置等)、燃焼用空気の確保(エアフィルタ強化等)、早期給熱（蓄熱タンク設置等）、早期給電	3.4. 3.4. 3.4. 3.4.
導入の背景	☐ 事業概要と導入背景を記載のうえ、導入した設備仕様の必要性や適正性などを評価	2.
導入スキーム（導入者）	☐ 設備導入者を明確にし、導入時の工夫点 例：事業者単独導入の工夫あるいは ESCO、エネルギーサービス等を活用 ☐ 事業者の規模（大企業、中小企業、エネルギー指定管理工場等） ☐ 複数事業者の取組み（自治体と連携等）	5. 5. 5.
導入スキーム（資金面）	☐ 補助金の活用、補助率向上の取組み等、資金調達のハードルを下げる取組み ☐ ランニングコスト削減（メンテナンスコスト低減等）の取組み	5. 5.
運用	☐ 平常時の運用の取組み（「スマート性、面的利用」に記載） ☐ 非常時の運用の取組み（「防災性・電源セキュリティ性」に記載）	6. 7.
その他	☐ 上記以外で評価できない項目でコージェネの寄与分を明確化できるもの 例：CASBEE「S」取得等にコージェネがどの程度寄与できるか等 ☐ 政策上の意義(余剰電力活用等)、社会的意義（節電要請の対応等）	9. 9.